

## II. プレホスピタルにおける救急車患者搬送の諸問題とその解決法

- P L 守谷 俊 (日本大学医学部附属板橋病院救命救急センター医長)  
赤羽弘和 (千葉工業大学工学部教授)  
高田邦道 (日本大学理工学部教授)  
松村みち子 (タウンクリエイター代表)  
吉田 傑 ((株) 本田技術研究所主任研究員)  
葛山順一 (鎌ヶ谷市役所主査)  
木戸伴雄 (交通アナリスト)  
平野和範 (練馬区都市整備部長)  
南部繁樹 ((株) トラフィックプラス代表)

救命救急活動における数分の時間が、命と引き換えになる程、その重要性が最近強調されている。この時間を少しでも短縮するためには、消防署、救急現場、病院のつながりが重要で、いわゆる「命のトライアングル」のそれぞれが機能しなければ、病院前(プレホスピタル)の特に重篤な傷病者においては救命することは困難であると推測される。しかしながらその問題の範疇は、トライアングル以外にも患者の特徴や社会構造の変化によって大きく広がりその多様性からすべてを解決していくことが困難である。

客観的なデータの収集可能な救急患者搬送の実態をもとに、搬送がスムーズに遂行されるための環境あるいは要件に着目し、プレホスピタルにおける効率的な方策を検証したい。一方、現時点で社会問題化している救急患者たらい回しについては、今後さらに大きくなることが予想されるので、問題点の明確化、できれば解決に対する方策の提案を行いたい。

本研究においては、①重症度や緊急度の高い三次救命救急施設に搬送された客観的データをもとに、プレホスピタルにおける患者搬送の効率化方策の検証を行う。②現状で発生している傷病者たらい回しの状況については、救急搬送活動の円滑な活動が行われている都市を手本に問題点を明らかにし、解決への方向性を検討する。①②の研究成果から今後広域運用に向かう救命救急活動の仕組みの中で、有効なプレホスピタルを行うための方策を提案する。